

進路実現に向けて、 基礎から着実に力をつける教科書

— Compass III の編集方針

江原 美明



◆ Compass III の編集方針

コミュニケーション英語IIIの目標は、コミュニケーション英語IIの学習を踏まえ、「実際の社会生活において活用できる」英語力を身に付けることとされています。そのためには基礎固めが不可欠。学習指導要領に準拠し、生徒の将来の社会生活や進路実現に貢献できる教科書を作ることを常に念頭に置き、次の方針に従って *Compass English Communication III* の編集にあたりました。

(1) 段階的に読む力を育成する

初見の英文を自分の力で読み解くスキルを無理なく身に付けられるよう、3つのUnitを通し段階的に読むことに習熟し、足場がけ (scaffolding) の必要が徐々になくなることを目指しました。

Unit 1: リーディング・スキル演習



Unit 2: パラグラフ・リーディング



Unit 3: パッセージ・リーディング

Unit 1 ではリーディング・スキルを体系的に学び、Unit 2 では英文の論理構造とパラグラフの要点を把握する練習を重ね、Unit 3ではまとまった英文で力試しをします。

(2) 論理的思考力を養う

論理的思考力を徹底的に養うことを目指し、本文の要点把握を助ける設問、パラグラフ内、パラグラフ間の論理展開と本文の概要を簡潔に図式化したチャート (graphic organizers) を多数掲載

しました。

(3) 柔軟な授業展開を可能にする

全体的にすっきりとしたレイアウトを採用し、活動や解説を精選しました。教科書の活動に制約され過ぎず、先生の持ち味を活かした柔軟な授業展開や言語活動を行うことが可能です。

(4) 言語活動と題材を通して学習意欲を高める

学習意欲を安定して維持させることが学習効果を高めることから、次の点に配慮しました。

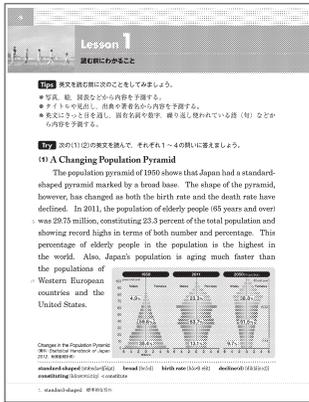
- 早期に具体的リーディング・スキルを扱うことで明確な目的意識、学習への充実感、自ら学ぶ意欲を高める。(Unit 1)
- 設問やチャートの工夫により、和訳に頼らず本文を理解する方法を示す。(Unit 1, 2)
- 練習問題や自己表現課題の例文を生徒に身近な内容にすることで、語彙・文法の定着を促進する。(Unit 2)
- 多様な題材を採用し、生徒の知的好奇心を刺激する。(Unit 1, 2, 3)

◆ Compass III の構成

Compass III の構成と、そのねらいについてご紹介します。

(1) Unit 1: リーディング・スキル演習

8つのレッスンが配置され、将来初見の英文を読んで理解するために必要な tips を演習形式で学びます。「英文を読む」とは何かが具体的かつ詳細に示され、ユニットの終わりには27項目の tips がチェックリスト形式で一覧表示されています。



Unit 1, Lesson 1

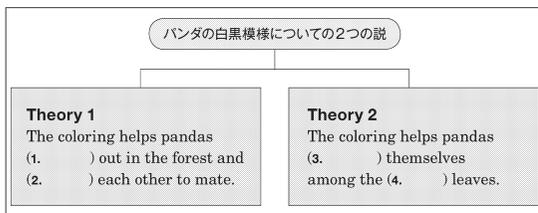
自分がにとって必要かどうかを判断する際も、試験場で初めて読む英文に取り組む際も、重要なスキルと言えます。

(2) Unit 2 : パラグラフ・リーディング

8レッスン、各3～4パートで構成され、言語活動を通じた4技能の総合的育成を目指します。各レッスンの流れは次の通りです。

- ① レッスン扉 (写真・イラスト)
- ② 各パート本文・Comprehension (見開き)
- ③ Review (リスニングと全体のサマリー)
Phrases & Structures (表現・構文の整理)
- ④ Practice (重要語彙、文構造を使う練習)
- ⑤ Further Practice (語彙、リスニング、自己表現活動)

各パートでは、Comprehension の設問やチャートを活用してパラグラフの要点、論理構造を捉える練習を行います。チャート(下図参照)は本文の再生活動 (retelling) にも活用できます。



Unit 2, Lesson 1の Comprehension

(3) Unit 3: パッセージ・リーディング

説明文・エッセイ・物語を含むレッスンが5つ

例えば Lesson 1 「読む前にわかること」では、写真・図、タイトル、出典、あるいは英文に含まれる固有名詞やキーワードを見て、英文の内容を予測する練習をします。これは、実生活でその情報

用意されています。センター入試長文問題レベル(500～600語)の良質の英文と、その内容に関する要約英文完成問題(150～200語)、内容真偽(T/F)問題や選択肢問題から構成されています。

◆ *Compass III* の題材

英文を読むことにより、私たちは語彙・文法・談話構造などの形式スキーマだけではなく、社会生活に於ける思考・判断の礎となる内容スキーマ(一般知識)を広げることができます。題材の選定にあたっては、将来に向けて高校生が必要とする形式・内容双方のスキーマの拡充に役立つ英文を採用するよう心がけました。例えば、

- a population pyramid / as busy as a bee / how to cope with stress / weather prediction / biological clocks / universal design / the civil rights movement

は、Unit 1 の異なるレッスン本文から拾ったチャックですが、私たちが人や社会、自然や動物、科学的発見から何かを学ぶ際に出会う概念の宝庫です。歴史や文化、伝説や物語からも、こうした概念、知識、教訓を学ぶことができます。

Compass III では、現代英語で使用頻度の高い語彙・文法を題材という文脈の中で学び、同時に思考・判断の核となる重要な概念を学べるようにしました。生徒たちは、授業の中でこうした概念を英語で学ぶことにより、英語力と同時に社会の諸問題について論理的・批判的に考え、解決策や新たな考えを創造する能力を徐々に身に付けると考えています。

*

これからの時代を生きる教え子たちは、英語が使えることで社会貢献の舞台が確実に広がるでしょう。*Compass III* が高校生にとり一生の財産となる英語力、考える力、教養を身に付ける助けとなることを願っております。

(えはら よしあき・

神奈川県立国際言語文化アカデミア教授)